

アイヌ施策推進地域計画 事後評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
旭川市	旭川市アイヌ施策推進地域計画	令和6年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B / A	備考
博物館入館者数 【関連事業】 ・チセの保存活用 ・博物館収蔵アイヌ資料の整備推進 ・アイヌ企画展の開催	30,300 人	32,066 人	105.8%	
博物館におけるアイヌ文化関連事業の 参加者数(延べ) 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講座の実施 ・アイヌ民族音楽会の開催 ・体験学習に使用できるアイヌ民族資料 の製作 ・アイヌ学習プログラムの推進	6,200 人	3,997 人	64.5%	
生活館におけるアイヌ文化関連講習会 の受講者数(延べ) 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講習会の実施	1,100 人	1,798 人	163.5%	
観光入込客数 【関連事業】 ・アイヌ自身によるアイヌ文化紹介の小 冊子の制作 ・知里幸恵顕彰事業の実施 ・アイヌ企画展の開催 ・アイヌ語地名の普及促進 ・「アイヌ文化ふれあいまつり」の開催 ・「アイヌ文化に親しむ日」の実施 ・博物館におけるアイヌ文化情報発信 ・観光受入体制の充実	600 万人	486 万人	81.1%	

・観光イベントにおけるアイヌ文化の発信 ・アイヌ文化施設の整備 ・上川アイヌ聖地の観光案内整備 ・アイヌ音楽イベントの開催				
市民生活館利用者数 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講習会の実施 ・生活館の整備	29,280 人	19,172 人	65.5%	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
博物館入館者数 【関連事業】 ・チセの保存活用 ・博物館収蔵アイヌ資料の整備推進 ・アイヌ企画展の開催	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和 4 年度の間目標値は未達成であったが、学校への積極的な周知等によりアイヌ学習プログラムで来館する児童生徒が増加したことや、体験学習を伴う入館者の増加等により、入館者数が見込みを上回り、最終目標値を達成することができた。	
博物館におけるアイヌ文化関連事業の参加者数(延べ) 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講座の実施 ・アイヌ民族音楽会の開催 ・体験学習に使用できるアイヌ民族資料の製作 ・アイヌ学習プログラムの推進	積極的な周知等によりアイヌ学習プログラムに参加する児童生徒や講座・講演会の参加者が増加した一方で、当日の天候の影響などもあり参加が低調となったと思われるイベントもあり、全体としては目標値の達成に至らなかった。	
生活館におけるアイヌ文化関連講習会の受講者数(延べ) 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講習会の実施	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和 3 年度に参加者数が落ち込んだものの、令和 4 年度以降徐々に生活館の利用者が増加してきたことに加え、講習回数の増加や文化伝承事業の内容充実等に取り組んだことにより、参加者数が増え、最終目標値を達成することができた。	
観光入込客数	新型コロナウイルス感染症の位置づけ	

【関連事業】 ・アイヌ自身によるアイヌ文化紹介の小冊子の制作 ・知里幸恵顕彰事業の実施 ・アイヌ企画展の開催 ・アイヌ語地名の普及促進 ・「アイヌ文化ふれあいまつり」の開催 ・「アイヌ文化に親しむ日」の実施 ・博物館におけるアイヌ文化情報発信 ・観光受入体制の充実 ・観光イベントにおけるアイヌ文化の発信 ・アイヌ文化施設の整備 ・上川アイヌ聖地の観光案内整備 ・アイヌ音楽イベントの開催	が「5類感染症」となり、日本国内だけではなく、世界中の観光客の動きが活発になったことから、コロナ禍以前の数値まで回復しつつあるが、最終目標値の達成に至らなかった。	
市民生活館利用者数 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講習会の実施 ・生活館の整備	令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により大幅に利用者が減少したが、令和4年度以降徐々に利用者が増加し、令和5年度、6年度の生活館利用者数はコロナ前の2倍程度まで回復したが、目標値の達成には至らなかった。	

(コメント) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和4年度の間目標についてはいずれも達成することができなかったが、新型コロナウイルス感染症の5類位置付けに伴い、改めて最終目標値の達成に向け事業期間後半の各種取組の推進に努めてきたところである。 結果として、「博物館入館者数」及び「生活館におけるアイヌ文化関連講習会の受講者数」は最終目標値を達成し、その他の指標も、令和4年度の間評価時と比べて、達成率が向上している。 今後は、令和6年度の旭川市アイヌ施策推進検討会において、観光客が数百万人単位で本市を訪れているのに対し、博物館や生活館の入館者数が少なすぎることの指摘を受けたことを参考として、アイヌ関連事業以外の施策推進も含めて、観光入込客数の増加を目指すとともに、本市のアイヌ文化、アイヌ関連施設に観光客の目が向くような取組を強化し、引き続きそれぞれの目標値の達成を目指していく必要があると考えている。

2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

(1) チセの保存活用

事業の進捗状況	事業実施主体
---------	--------

アイヌの人々の伝統的な住居であるチセの補修を通じて技術の伝承を推進するため「アイヌ文化の森・伝承のコタン」にあるチセ(付属建物を含む)の補修を行うとともに、チセを活用して伝統的な生活様式の紹介・体験などを行うアイヌ文化体験ワークショップを実施した。 ・チセの補修:令和 2 年度 ポロチセ 1 棟、プーの補修 令和 3 年度 ポロチセ 1 棟の建替に向けた準備作業 (ポロチセの解体や木材などの調達と乾燥) 令和 4 年度 令和 3 年度に解体したポロチセの建替 令和 5 年度 ポンチセ(上段)1 棟、プー、アシルの補修 令和 6 年度 ポンチセ(下段)1 棟の補修 ・チセ保存活用ワークショップ:令和 2 年度 延べ参加者 7 人 令和 3 年度 延べ参加者 16 人 令和 4 年度 延べ参加者 11 人 令和 5 年度 参加者 8 人 令和 6 年度 参加者 14 人	旭川市教育委員会
事業の効果	
チセの計画的な補修を通じて、伝承者の高齢化が進み失われつつあるチセの補修技術などを若い世代に伝えることができた。また、保存活用ワークショップの実施により、市民のアイヌ文化への理解促進を図ることができた。	

(2) 博物館収蔵アイヌ資料の整備推進

事業の進捗状況	事業実施主体
博物館資料の保存状態を維持し、館内展示や将来的な一般公開・情報提供などに活用するため、令和 2 年度に、旭川市博物館が所蔵する約 50 年前に録音されたアイヌ語音声資料のオープンリールテープ 287 本のデジタルデータ化を実施し、CD とHDDに保存したバックアップデータを整備した。 日常会話を中心にした音声資料と伝えられており、活用・公開にはプライバシーへの配慮が必要とされるため、今後は音声資料の調査研究を行っていく。	旭川市教育委員会
事業の効果	
再生機器が失われつつあるオープンリールテープ資料の保存性を高め、今後の活用の基礎を築くことができた。	

(3) アイヌ文化関連講座の実施

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化への理解促進と普及を図るため、博物館においてアイヌ語やアイヌ文様刺繍の講座を実施した。 ・アイヌ語講座:令和 2 年度 9 回・延べ参加者 123 人	旭川市教育委員会

令和３年度 ５回・延べ参加者 72 人 令和４年度 10 回・延べ参加者 82 人 令和５年度 10 回・延べ参加者 93 人 令和６年度 10 回・延べ参加者 112 人 ・アイヌ刺繍体験講座：令和２年度 ２回・延べ参加者 20 人 令和３年度 ２回・延べ参加者 11 人 令和４年度 ２回・延べ参加者 10 人 令和５年度 ２回・延べ参加者 20 人 ・アイヌ刺繍講座：令和２年度 ２回・延べ参加者 19 人 令和３年度 ２回・延べ参加者 16 人 令和４年度 ２回・延べ参加者 20 人 令和５年度 ２回・延べ参加者 20 人 令和６年度 ２回・延べ参加者 20 人	
事業の効果	
講座の開催を通じて、気軽にアイヌ民族の歴史や伝統文化に触れる機会を市民に提供し、アイヌ文化の伝承と理解の促進を図ることができた。	

(４) アイヌ文化関連講習会の実施

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化関連講習会として、毎年開催している刺繍講習、木彫講習、アイヌ民芸品展示会のほか、令和２年度は親子アイヌ文化体験(近文地区とアイヌの歴史・文化体験)事業、令和４年度はアイヌ料理講習会、令和５年度はアイヌ刺繍体験講習会、令和６年度はアイヌ料理体験会及びアイヌ刺繍体験講習会を実施した。 各年度の講習会開催回数(延べ)：令和２年度 48 回、令和３年度 32 回、令和４年度 47 回、令和５年度 56 回、令和６年度 57 回 また、令和３年度からは文化伝承事業を開催しており、令和３年度はアイヌ舞踊講習会、令和４年度はアイヌ舞踊講習会及びイナウ作り講習会、令和５年度からはアイヌ舞踊講習会、イナウ作り講習会及びアイヌ儀式の伝承者育成講習会と内容を拡大しながら実施した。 各年度の講習会開催回数(延べ)：令和３年度 10 回 令和４年度 36 回、令和５年度 36 回、令和６年度 46 回	旭川市
事業の効果	
新型コロナウイルス感染症の影響により予定どおりに実施できない講習会もあったが、講習回数の増加や文化伝承事業の内容の充実、自主事業の実施により、市民がアイヌ文化を気軽に体験できる機会や、アイヌ文化の担い手を育成する機会を提供することで、アイヌ文化への理解と伝承の促進を図ることができた。	

(５) アイヌ民族音楽会の開催

事業の進捗状況	事業実施主体
市内の小・中学校において、旭川チカプニアイス民族文化保存会による古式舞踊や民族楽器ムツクルを披露する音楽会を開催した。 令和２年度 ７校、令和３年度 ７校、令和４年度 １０校、 令和５年度 １０校、令和６年度 １０校	旭川市教育委員会
事業の効果	
児童生徒のアイヌ文化への理解促進を図ることができた。	

(６) 体験学習に使用できるアイヌ民族資料の製作

事業の進捗状況	事業実施主体
博物館や学校等での体験学習で使用するため、アイヌ民族資料(レプリカ)を製作するとともに、今後の技術伝承や広報活動に活用できるよう、その製作過程を映像に記録した。 令和２年度 手甲、脚絆、帽子、前掛け 各１点製作 令和３年度 着物 １点製作 令和４年度 帯 １点、はちまき ２点製作 令和５年度 着物 １点製作 令和６年度 捧酒箸 ２点製作	旭川市教育委員会
事業の効果	
アイヌ民族資料のレプリカを製作し、その過程を映像に記録することで、技術の伝承を図ることができた。今後、製作したレプリカ及び映像資料を体験学習や広報活動などで活用し、アイヌ文化へのさらなる理解促進を図っていく。	

(７) アイヌ学習プログラムの推進

事業の進捗状況	事業実施主体
市内の小・中学校の児童生徒による博物館や川村カ子トアイヌ記念館への訪問をバスの送迎付きで受入れ、展示解説や体験学習を実施した。 令和２年度 博物館 １０校、アイヌ記念館 ６校 令和３年度 博物館 １１校、アイヌ記念館 ８校 令和４年度 博物館 １５校、アイヌ記念館 ８校 令和５年度 博物館 １５校、アイヌ記念館 ７校 令和６年度 博物館 ２０校、アイヌ記念館 ６校	旭川市教育委員会
事業の効果	
博物館及び川村カ子トアイヌ記念館においてアイヌの歴史や文化を学び体験する学習活動を実施することにより、児童生徒のアイヌの歴史や文化への理解促進を図ることができた。	

(８) アイヌ自身によるアイヌ文化紹介の小冊子の制作

事業の進捗状況	事業実施主体
令和２年度に川村カ子トアイヌ記念館の歴史や収蔵品等を紹介する小	旭川市教育委員会

冊子を 20,000 部作成・配付した。 川村カ子トアイヌ記念館の新館開館に合わせ、令和 5 年度に小冊子の 内容再編を行い、20,000 部を作成・配付した。 令和 6 年度は、前年度に制作した小冊子の英語版 15,000 部に加え、 新たに「ものづくり」「植物」「踊り」をテーマとした小冊子を各 5,000 部作成 した。	
事業の効果	
アイヌ自身の視点からアイヌ文化を語る小冊子を作成することにより、地域のアイヌ文化のPR や川村カ子トアイヌ記念館への来館を市内外に働きかけることができるようになった。 また、アイヌ関連施設の来館者が展示と合わせて小冊子を読むことにより、上川アイヌの文化 について理解を深めることができるようになった。	

(9) 知里幸恵顕彰事業の実施

事業の進捗状況	事業実施主体
令和 4 年の知里幸恵没後 100 年を記念し、幸恵の業績を称える「知 里幸恵を偲ぶ会」の開催や、『アイヌ神謡集』、知里幸恵文学碑等の内 容を紹介する動画の作成、アイヌ文化伝承者による知里幸恵を称えるタ ペストリーの製作といった各種事業を実施した。 令和 6 年度には、知里幸恵に関する資料やゆかりの地等を紹介するリ ーフレット 5,000 部を作成した	旭川市教育委員会
事業の効果	
没後 100 年を記念した各種事業を実施することにより、知里幸恵や『アイヌ神謡集』について の理解の促進を図ることができた。また、リーフレットによりアイヌの歴史文化の PR ができるよう になった。	

(10) アイヌ企画展の開催

事業の進捗状況	事業実施主体
博物館において、企画展「アイヌのゴザ」を開催し、同館が所蔵するゴ ザを展示して製作方法や使われ方を紹介した。また、期間中に関連イベ ントとして、ゴザ編みの技術を利用したコースター作りを実施した。 会期中来館者(令和 5 年 11 月 23 日～12 月 24 日) 1,609 人 関連イベント参加者 9 人	旭川市教育委員会
事業の効果	
企画展及び関連イベントの開催により、市民や観光客のアイヌ文化への理解促進を図ることが できた。	

(11) アイヌ語地名の普及促進

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ語地名表記推進懇談会での意見を参考に「アイヌ語地名表示	旭川市教育委員会

板」の製作・設置・保守を行うとともに、アイヌ語地名表示板の設置箇所を訪ねるバスツアーやアイヌ語地名に関する講演会を開催した。 令和 2 年度:「タンネ メム/永山 3 号川」の製作、アイヌ語地名表示板紹介講座の開催 令和 3 年度:「ピピ、ピプ/比布川」の製作、アイヌ語地名講座の開催 令和 4 年度:「テレケ ウシ ナイ/南校川」の製作、アイヌ語地名バスツアー、アイヌ語地名講演会の開催 令和 5 年度:「テレケ ウシ ナイ/南校川」の設置、「オホ ウツ ナイ/オホーツナイ川」の保守、「イシカラ/石狩川」の製作、アイヌ語地名バスツアー、アイヌ語地名講演会の開催 令和 6 年度:「イシカラ/石狩川」の設置、「パラモイ/広い湾」の製作・設置・保守、アイヌ語地名バスツアー、アイヌ語地名講演会の開催	
事業の効果	
アイヌ語地名表示板やそれを活用した事業の実施によって、アイヌ語地名の普及促進を図ることができた。	

(12) 「アイヌ文化ふれあいまつり」の開催

事業の進捗状況	事業実施主体
市内中心部で開催される「食べマルシェ」に連動する形で開催する予定だったが、令和 2 年度、令和 3 年度は「食べマルシェ」が新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止となり、令和 4 年度は開催されたもののステージイベントは自粛となったため、令和 2 年度から 4 年度まではアイヌ古式舞踊や食文化を紹介する動画を撮影しオンラインでの公開を主として行った。 令和 2 年度 アイヌ古式舞踊動画、食文化紹介動画 令和 3 年度 アイヌ古式舞踊動画、博物館内でアイヌ工芸品の特別展示 令和 4 年度 ムックル演奏動画、アイヌ口承文芸動画、木彫講座の開催 令和 5 年度以降は、「食べマルシェ」の開催時期に合わせて開催し、博物館での伝統工芸品の展示、アイヌ文様刺繍体験などのほか、「食べマルシェ」旭川駅前ステージにおいてアイヌ古式舞踊の公演を実施した。 令和 5 年度 延べ参加者 1,381 人(博物館展示室入館者含む) 令和 6 年度 延べ参加者 1,383 人(博物館展示室入館者含む)	旭川市教育委員会
事業の効果	
「食べマルシェ」期間中におけるイベントの開催により市民や観光客にアイヌ文化に触れる機会を提供することができた。	

(13) 「アイヌ文化に親しむ日」の実施

事業の進捗状況	事業実施主体
文化の日に博物館を無料開館し、「アイヌ文化に親しむ日」として、アイヌ古式舞踊の公演やアイヌ文化伝承者による講演、アイヌ文様を題材とした各種制作体験、地元高校郷土部の協力によるワークショップやパネル展示などを実施した。 令和２年度 延べ参加者 1,243 人(博物館展示室入館者含む) 令和３年度 延べ参加者 1,359 人(同上) 令和４年度 延べ参加者 790 人(同上) 令和５年度 延べ参加者 843 人(同上) 令和６年度 延べ参加者 669 人(同上)	旭川市教育委員会
事業の効果	
文化の日に合わせたイベントの開催により、市民や観光客にアイヌ文化に触れる機会を提供することができた。	

(14) 博物館におけるアイヌ文化情報発信

事業の進捗状況	事業実施主体
市内のアイヌ文化施設やアイヌ語地名などを紹介するリーフレットを製作(令和６年度 10,000 部)し、市中心部(旭川駅構内)にある旭川市博物館アイヌ文化情報コーナー「ル・シロシ」で配布した。	旭川市教育委員会
事業の効果	
リーフレットの製作・配布により、市民や観光客に対し広くアイヌ文化に関する情報発信を行うことができた。	

(15) 観光受入体制の充実

事業の進捗状況	事業実施主体
令和２年度に観光モデルコースとして「めぐる ふれる カムイを感じる(教育旅行)」、「レラ・ル(サイクリングコース)」、「ホユッパ(ランニングコース)」を開発し、パンフレットやデジタルマップを作成。アイヌ文化と産業を学ぶ課題研究型モデルコースを選定した他、北海道内のスポーツ関連施設等にパンフレット設置を行い、コロナ禍において、屋外アクティビティとしてサイクリングやランニングを通して、アイヌ文化等に気軽に触れることのできる新しい形を創造した。 前年度の取り組みを踏まえ、令和３年度は、「スポーツ×文化」を楽しく体験できる「アプカシ・ロゲイニング」を実施。アフターコロナを見据えたイベント型の取り組みとして、サイクリング・ランニング・ウォーキングでの参加とし、地方都市の課題でもある公共交通機関(バス)の利用も取り入れた形で行った。また、イベント実施後の参加者のフィードバックを基に「アプカシ・ロゲイニングマップ」の作成も行い、本市に訪れる観光客が旅の楽しみ方	旭川市

の一つに「アプカシ・ロゲイニング」を選択できるものとした。更にアイヌ文化ガイド育成に寄与するアイヌ文化関連スポット解説動画を作成した。 令和４年度は、旭山動物園にいる北方動物や旭山公園に生息する野草等を中心に東旭川エリアのアイヌ文化関連情報等を発信するためのWEBマップを作成した。また、インバウンド需要の回復・ATWSを見据え、前年度に作成したアイヌ文化ガイド育成動画の翻訳作業を行い、外国人観光客の受入体制を整え、地元の高校生を対象にアイヌ文化ガイド育成を目的としたモニターツアーを実施した。 令和６年度は、神居古潭に設置されている観光案内板の老朽化に伴い、盤面と支柱部分を撤去し、新たに面板のデザインを制作して掛替作業を実施した。また、神居古潭周辺マップを制作し、市のホームページ等に掲載し、情報発信を行った。	
事業の効果	
令和２年度の観光モデルコース開発におけるパンフレット作成実績としては、「めぐる ふれるカムイを感じる 300 部」、「レラル・ル、ホユツパ 各 1,000 部」であり、札幌市と旭川市のスポーツ関連施設約 43 カ所に「レラル・ル」、「ホユツパ」のパンフレットを設置。「めぐる ふれる カムイを感じる」に関しては、「月刊教育旅行 2 月号」に掲載し、全国に向けて本市の情報発信を行った。また、サイクリングコース掲載サイトである「たびりん、自転車大好きマップ、Enjoy Sports Bicycle」の 3 媒体を通じて、「レラル・ル」の情報発信を行い、本市の取り組み内容の周知を図った。新型コロナウイルスによる市場変化に対応した新規のモデルコース等の作成により、今後の「スポーツ×文化」の需要拡大に期待できる。 令和３年度に開催した「アプカシ・ロゲイニング」はアフターコロナを見据えたイベントとして開催。新型コロナウイルスの影響を考慮して参加者数を絞り、28 名が参加した。アンケート調査の中でイベント満足度について質問したところ、イベント自体の満足度が高く 28 人中 27 人（1 人未回答）がアプカシ・ロゲイニングのような「歴史・文化」と「スポーツ」の組み合わせについて「面白いので取り組むべき」と回答があり、アフターコロナに向けてイベント需要の高さを実感すると共に継続的なイベント展開が期待できる内容であった。アイヌ文化ガイド育成動画に関しては「4 本」作成し、WEB上で発信することで、アイヌ文化における理解促進に繋がった。 令和４年度は、東旭川エリアのアイヌ文化関連情報を発信するためのWEBマップを作成し、本市の公式ホームページ等で周知を図り、身近にあるアイヌ文化への理解を深めた。アイヌ文化ガイド育成動画に関しては、インバウンド向けに「英語：5 本、繁体字：5 本」の翻訳作業を行った。インバウンド需要の回復とATWSを見据えた事業展開を図ることができた。また、アイヌ文化ガイド育成動画を活用し、ガイド育成を目的としたモニターツアーを実施。16 名の高校生が参加し、地元のガイド育成に寄与した。 令和６年度は、神居古潭観光案内板の盤面及び支柱部分が老朽化・破損しており、十分な案内ができていない状態であったため、神居古潭を中心とした神居古潭周辺マップを新たにデザインし、観光案内看板の掛替と Web マップを制作した。Web マップは市のホームページ等に掲載し、情報発信を行った。	

(16) 観光イベントにおけるアイヌ文化の発信

事業の進捗状況	事業実施主体
令和 3 年度に開催予定であった「こたんまつり」、「旭川冬まつり」が新型コロナウイルスの影響により中止となったため、代替え事業である「アイヌ伝説が残るスポットに関する映像制作」、「冬期間見学可能なアイヌ文化関連屋内施設の映像制作」を行った。 令和 4 年度も「こたんまつり」は中止となり、代替え事業として「こたんラリー」を開催。（市内のアイヌ文化関連施設等をめぐるスタンプラリー）「旭川冬まつり」は規模縮小により代替え事業として、冬まつり会場にアイヌ文様がデザインされた看板を設置した。 令和 5 年度は「こたんまつり」期間中に市内のアイヌ関連スポットを巡ってクイズに答え、商品の抽選に応募することができる「スマホde謎解きアイヌラリー」を実施した。	旭川市
事業の効果	
令和 3 年度、「アイヌ伝説が残るスポットに関する映像制作 2 本」、「冬期間見学可能なアイヌ文化関連屋内施設の映像制作 2 本」を行い、こたんまつり開催場所である神居古潭や閑散期である冬期間に利用可能な旭川市博物館等の施設についてWEB上で分かりやすく発信することができた。 令和 4 年度開催の「こたんラリー」では、アイヌ文化関連施設5スポットを取り入れたスタンプラリーを実施し、プレゼント応募件数「124件」、アイヌ文化関連施設5スポット訪問者合計「201人」で、東京都や神奈川県等の市外の方も参加され、アイヌ文化に関連する理解を促進できた。また、旭川冬まつり会場に「5つ」のアイヌ文様入りの看板を設置し、アイヌ文化を身近に感じることができる空間を創出した。 令和 5 年度に開催した「スマホde謎解きアイヌラリー」では、アイヌ文化関連施設 13 箇所を巡るクイズラリーを実施し、Webページアクセス数「2,916PV」、ユーザー数「882 人」、プレゼント応募者数「85 人」を記録した。	

(17) アイヌ文化施設の整備

事業の進捗状況	事業実施主体
川村カ子トアイヌ記念館の機能充実のため、令和 2 年度の「新館」基本構想(展示等)作成、令和 3 年度の基本設計・実施設計作成、令和 4 年度の新館建設に対し、補助金を交付した。 令和 6 年度は常設展示でアイヌ民族の文化・歴史を紹介している旭川市博物館の冷房設備の改修を行った。	川村カ子トアイヌ記念館 旭川市教育委員会
事業の効果	
川村カ子トアイヌ記念館を、旭川市アイヌ施策推進地域計画の目標である「アイヌ文化を生かすまちづくり」の拠点施設としての機能を発揮する施設とすることを目指し、同館が実施する新館の建設を支援することにより、令和 5 年度の新館開設に向けた整備事業を進めることができた。 また、冷房設備の改修により、博物館において来館者が快適に展示を観覧できる環境と、展示室や収蔵庫内に所蔵するアイヌ文化に関する資料などを良好な状態で展示・保管する環境	

を整備することができた。

(18) 上川アイヌ聖地の観光案内整備

事業の進捗状況	事業実施主体
令和 3 年度、国道沿いに日本遺産でもある「アイヌ文化の森 伝承のコタン」への観光誘導を目的とした看板を設置。また、アイヌ文化の森 伝承のコタンを中心とした上川アイヌ聖地一帯の観光WEBマップを作成した。 令和 4 年度、インバウンド回復を見込んで、前年度に作成したWEBマップの翻訳作業を行い、多言語化したWEBマップの二次元コード化したものを看板デザインに落とし込み、観光看板を設置。また、上川アイヌ聖地に関連した動画の翻訳作業を行った。 令和 5 年度、アイヌ文化の森・伝承のコタンへ誘導する観光看板の制作・設置を行った。 令和 6 年度は、上川アイヌの聖地であるチノミシリ(嵐山)にある「アイヌ文化の森・伝承のコタン」について、観光客を分かりやすく誘導するための案内の整備を行った。	旭川市
事業の効果	
令和 3 年度に設置した「アイヌ文化の森 伝承のコタン」看板(1基)により観光客の誘導(国道から)を行うことができた。また、WEBマップの作成により上川アイヌ聖地一帯の情報を一元化し、WEB上で発信知ること、地域一帯のブランド価値を高め、認知度の向上を図ることができた。 令和 4 年度は、バス停から離れている「アイヌ文化の森 伝承のコタン」の誘導を目的とした「日本語・英語・中文(簡体字・繁体字)、韓国語」に対応した二次元コード付の観光看板を1基設置し、今後のインバウンド需要に対応することができた。また、ATWSを見据え、上川アイヌ聖地に関連した動画の翻訳を「4本」行った。 令和 5 年度は、旭岡 1 丁目(アイヌ文化の森・伝承のコタン)資料館・北邦野草園に繋がる橋梁付近)に「北の嵐山」・「アイヌ文化の森 伝承のコタン」・「旭川市北邦野草園」からなるアイヌ文化の森・伝承のコタンへ観光客を誘導するための看板の制作・設置を行った。 令和 6 年度は、上川アイヌの聖地であるチノミシリ(嵐山)にある「アイヌ文化の森・伝承のコタン」について、令和 3 年度に制作した Web マップの店舗情報を更新し、多言語化を行った。	

(19) アイヌ音楽イベントの開催

事業の進捗状況	事業実施主体
令和 5 年 8 月 26 日に旭川市公会堂において「イランカラプテ音楽祭 in 旭川」を開催し、アイヌ音楽及び古式舞踊の披露、ユーカラのアニメ上映、文様衣装の紹介を行った。	旭川市教育委員会
事業の効果	
381 名に会場いただき、アイヌの音楽や舞踊等の魅力を直接発信することにより、上川アイヌの伝統文化に対する理解を促進できた。	

(20) 生活館の整備

事業の進捗状況	事業実施主体
建物の長寿命化を図るため、令和 2 年度に市民生活館の屋上防水改修を行った。また、設備の修繕として暖房器具取替等(令和 2 年度)、床貼り替え修繕等(令和 3 年度)、ガス検知器取替、水廻り修繕等(令和 4 年度)、ガステーブルコンロ取替、自動扉取替、ガス検知器交換(令和 6 年度)のほか、令和 3～5 年度に屋内照明器具の取替(LED 化)を行った。 また、新たな設備として、音響設備等(令和 2 年度)、会議用テーブル(令和 3・4 年度)、AED(令和 4 年度)、冷房(令和 5・6 年度)を設置した。	旭川市
事業の効果	
市民生活館及び近文生活館の老朽化対応と利用者の利用環境改善のため、必要な設備等の整備を実施することができた。	

3. 今後の方針等

(コメント) 各種イベントや資料の作成・配付を通じて、アイヌの方の文化伝承やアイヌ以外の方々への周知、理解促進に関する取組を一定程度進めることができた。また、観光客増加に向けた案内看板や動画・WEBページの制作も進めることができた。 一方、文化伝承の取組継続のため、アイヌ工芸品の制作に関する素材の調達、音楽・舞踊を披露する場の設置、散逸するアイヌ関連の品物や記録の保存など、現状としてアイヌの方が独力で実施することが困難なものの支援が引き続き求められる。 また、アイヌ文化に興味を持った市民等の更なる理解促進のために、講座・講習等の基本的な取組継続に加え、新たな方向性として、これまでになかった場所・タイミングでのアイヌ古式舞踊の実施やWEBサイトの整備、他の観光スポットとアイヌ施設の連携促進、アイヌ文化に関連した魅力的な観光地の創設等の取組を通じて、観光客等のより多くの人に対し、地域のアイヌ文化に目を向け、アイヌ関連施設に足を運んでいただけるように働きかけていく必要がある。
